

富士山火山三県合同防災訓練2014
合同図上訓練実施要領
(案)

富士山火山防災対策協議会作成

1 目的

富士山噴火に備えた火山防災訓練を山梨県、静岡県、神奈川県、関係市町村、国、防災関係機関、火山専門家等が合同で実施し、火山災害に対する防災力や関係機関との連携の強化を図るとともに、富士山火山広域避難計画など各計画に基づく本部等の設置や運営手順等を確認し、災害時における防災力の強化や対応の円滑化を図る。

2 重点項目

以下の項目を重点に合同図上訓練を行う。

- (1) 富士山火山広域避難計画等の検証
- (2) 国、県、市町村、防災関係機関、火山専門家との連携強化
- (3) 富士山火山噴火に対する防災力の強化

3 実施日時

平成26年10月19日（日） 午前8時30分から正午まで

4 参加機関

富士山火山防災対策協議会の構成機関（68機関）を基本とする。
詳細は別紙1を参照。

5 訓練内容

噴火警戒レベル3から噴火開始直後までを想定し、初動態勢や対応について会議等を通じて検証するとともに、関係職員等のスキルアップを図る。詳細は別紙2を参照。

(1) 会議

合同図上訓練会議開催要領により次の会議を実施する。

- ①三県知事・関係省庁災害警戒会議による合同テレビ会議（合同テレビ会議）
- ②富士山噴火対策合同会議（対策合同会議）

(2) 現地視察

御殿場市畑岡会場で実施する実動訓練等を視察する。

6 会議会場

静岡県庁別館（静岡県静岡市葵区追手町9番6号）
詳細は別紙3を参照。

7 訓練運営事務局

合同図上訓練を円滑に実施するために訓練運営事務局を置く。訓練運営事務局は、3県担当者等で構成し、合同図上訓練の運営を行うとともに、報道機関等との調整を行う。

8 訓練時の服装

訓練参加者は防災服等を着用する。

9 訓練想定

合同図上訓練における想定は別紙4を参照。

10 訓練結果等の整理

訓練終了後、合同図上訓練への意見等を参加機関に対し文書により照会する。意見等は整理、検証の上、避難計画等に反映する。

11 訓練の中止・変更

富士山火山三県合同防災訓練2014実施計画による。

【別紙1】参加機関一覧表

区分	機関名 (富士山火山防災対策協議会構成機関)		TV 会議	合同 会議	現地 視察	
1	火山専門家	富士山火山研究所		●	●	
2		政策研究大学院大学	名誉顧問 荒牧 重雄		●	●
3		日本大学	特任教授 池谷 浩		●	●
4		静岡大学	教授 鷗川 元雄		●	●
5		富士山火山研究所	教授 小山 真人		●	●
6		神奈川県安全防災局温泉地学研究所	所長 藤井 敏嗣		●	●
7	山梨県関係	山梨県総務部		●	●	
8		山梨県企画県民部	防災危機管理課		●	●
9			峡南地域県民センター		●	●
10			富士・東部地域県民センター		●	●
11			富士山科学研究所		●	●
12		山梨県県土整備部	道路管理課		●	●
13			砂防課		●	●
14			富士・東部建設事務所吉田支所			
15		山梨県警察本部警備部	警備第二課		●	●
16		富士吉田市	安全対策課		●	●
17		西桂町	総務課		●	●
18		忍野村	総務課		●	●
19		山中湖村	総務課			
20		富士河口湖町	総務課		●	●
21		鳴沢村	総務課			
22	身延町	総務課		●	●	
23	静岡県関係	静岡県危機管理部				
24			危機政策課	●	●	●
25			危機情報課	●	●	●
26			危機対策課	●	●	●
27			東部危機管理局		●	●
28		静岡県交通基盤部道路局	道路保全課		●	●
29		静岡県交通基盤部河川砂防局	砂防課		●	●
30			土木防災課		●	●
31		静岡県交通基盤部	熱海土木事務所			
32			沼津土木事務所		●	●
33			富士土木事務所			
34		静岡県警察本部警備部	災害対策課		●	●
35		沼津市	危機管理課		●	●
36		三島市	危機管理課		●	●
37		富士宮市	防災危機管理室		●	●
38		富士市	防災危機管理課			
39		御殿場市	危機管理課		●	●
40		裾野市	防災交通課		●	●
41		長泉町	地域防災課		●	●
42		小山町	住民福祉部		●	●
43		神奈川県関係	神奈川県安全防災局安全防災部		●	●
44			神奈川県県土整備局河川下水道部	災害対策課		●
45	神奈川県県土整備局道路部		砂防海岸課		●	●
46	神奈川県県土整備局		道路管理課		●	●
47	神奈川県県西地域県政総合センター		県西土木事務所		●	●
48	国関係	神奈川県警本部警備部	安全防災課		●	●
49		国土交通省関東地方整備局	危機管理対策課		●	●
50			企画部 防災課		●	●
51			甲府河川国道事務所		●	●
52			河川計画課		●	●
53			富士砂防事務所		●	●
54			静岡国道事務所		●	●
55			沼津河川国道事務所		●	●
56		気象庁地震火山部火山課	火山課	●	●	●
57		東京管区气象台	気象防災部		●	●
58		甲府地方气象台			●	●
59		静岡地方气象台			●	●
60		横浜地方气象台			●	●
61		内閣府政策統括官(防災担当)	調査・企画担当、地方・訓練担当、	●	●	●
62		関東管区警察局	広域調整部		●	●
63		陸上自衛隊第1師団	第1特科隊		●	●
64		第34普通科連隊		●	●	
65	陸上自衛隊東部方面混成団	第31普通科連隊		●	●	
66	ライフライン関係	国土地理院中部地方測量部				
67		国土地理院関東地方測量部	防災課			
68		中日本高速道路(株)東京支社	保全企画統括チーム		●	●
69		中日本高速道路(株)八王子支社	保全・サービス事業部企画統括チーム		●	●
70		富士急行株式会社	交通事業部		●	●
機関数合計			7	57	57	

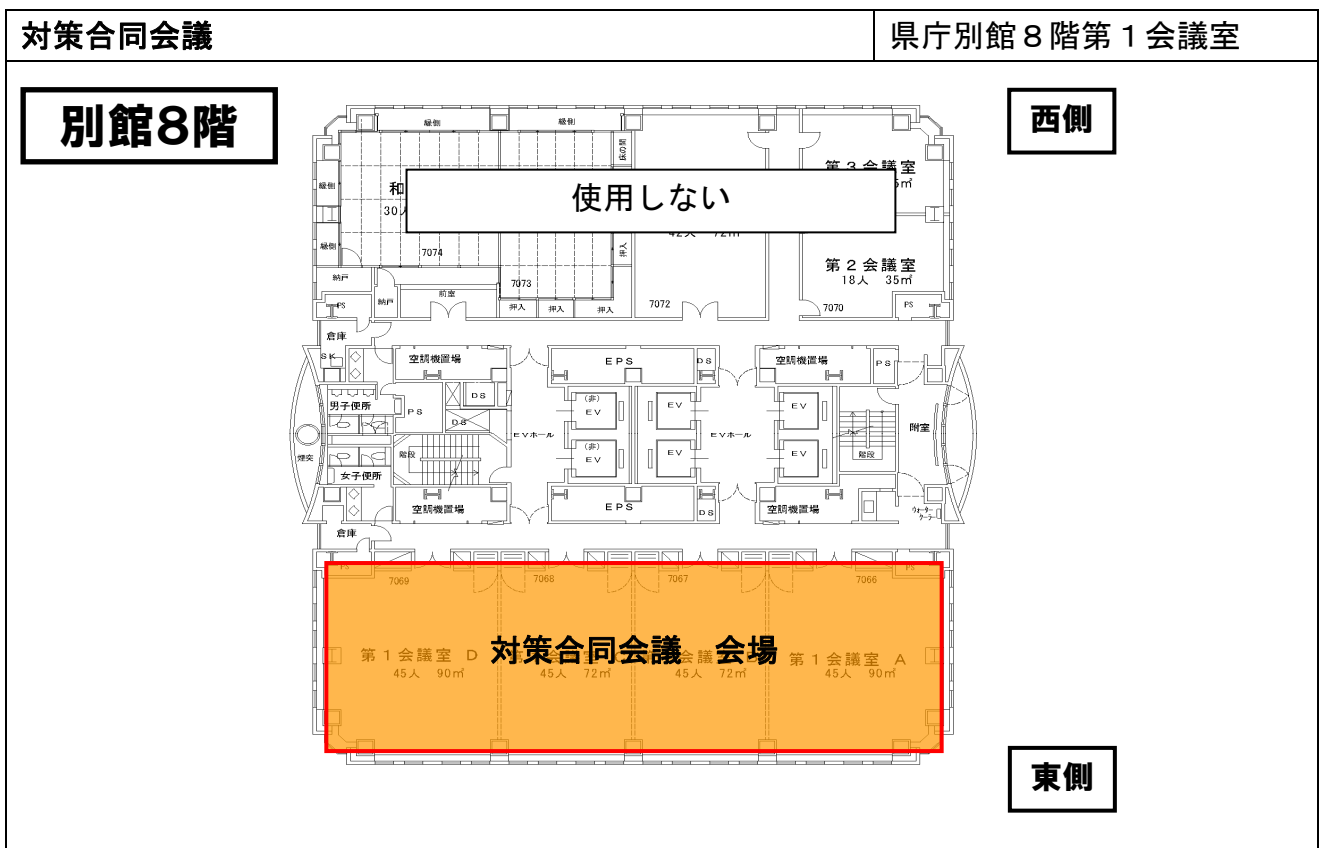
【別紙2】 訓練内容

1 訓練の主な内容と参加機関

区分	主な内容	参加機関
① 合同テレビ会議	<p>三県知事と内閣府副大臣又は大臣政務官が富士山噴火への対応を協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山活動の状況について ・政府の対応状況について ・三県確認事項について <p>※噴火警戒レベル3を想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県（知事） ・静岡県（知事） ・神奈川県（知事） ・内閣府 ・気象庁
② 対策合同会議	<p>次の事項について合意形成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶（内閣府） ・挨拶（静岡県知事） ・火山活動の状況について ・避難の状況について ・当面の主要課題への対応について ・火山専門家からの意見等 <p>※噴火警戒レベル5（噴火前）を想定</p>	<p>（協議会68機関と同じ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府 ・国土交通省 ・静岡県 ・山梨県 ・神奈川県 ・市町村 ・関係機関等 ・火山専門家
	<p>対策合同会議終了後、御殿場市畑岡会場で行われる実動訓練を視察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省実動訓練 ・火山防災対策展示ブース ・知事等講評 	

【別紙3】 訓練会場等

1 会議会場



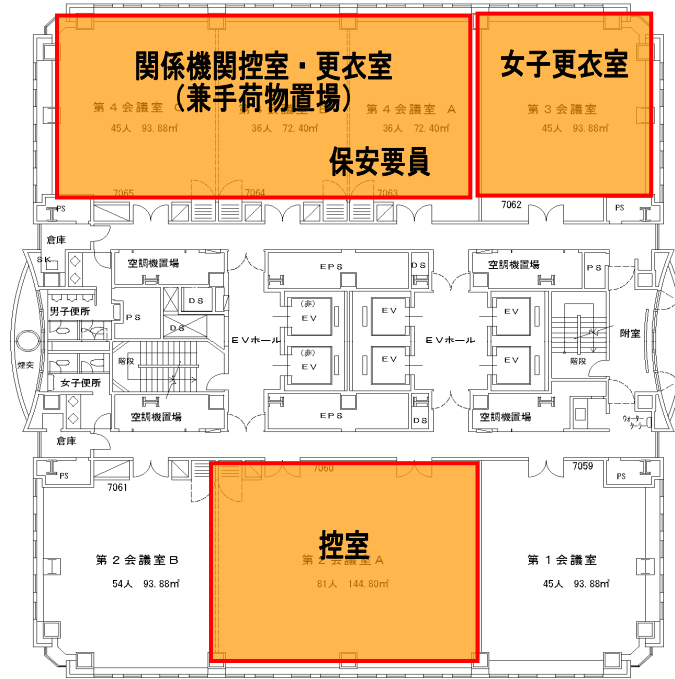
2 関係機関待機会場等

関係機関控室、更衣室

県庁別館7階西側

別館7階

西側



東側

【別紙4】訓練想定

1 前提条件

- (1) 合同図上訓練は独立シナリオで実施する。(市町の実動訓練とはリンクしない。)
- (2) 富士山噴火の単独災害とする。(巨大地震後の連続災害としない。)

2 噴火の概要

- (1) 発生日時 平成26年10月19日(日) 午前11時00分
- (2) 噴火場所 富士山南東側 標高2,000m付近(図1)
(経度35度19分54.22秒 緯度138度45分39.55秒)
- (3) 噴火様式 プリニー式噴火からストロンボリ式噴火に移行(大規模)
- (4) 気象条件 ○天候 快晴(富士山は明瞭に見える)
○風向風速 地上 西北西(10m/s)、上空 偏西風
- (5) 火山現象 ○火山灰、大きな噴石、小さな噴石、溶岩流
- (6) その他 ○溶岩流 御殿場市、裾野市方面に向け流下(図1)
○火山灰 噴煙は高度2万mに達し、風で神奈川県方面に流れる(図2)
○小さな噴石 火山灰同様、風で神奈川県方面に流れる(図3)

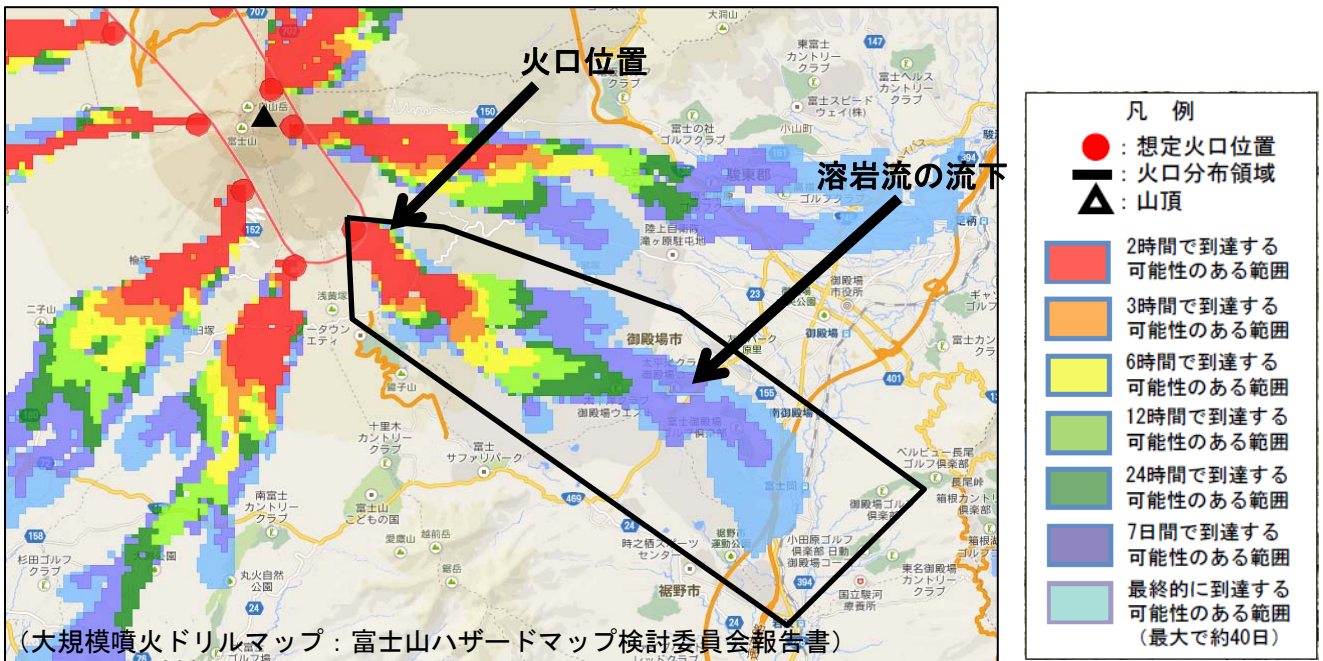


図1 火口位置及び溶岩流の流下範囲

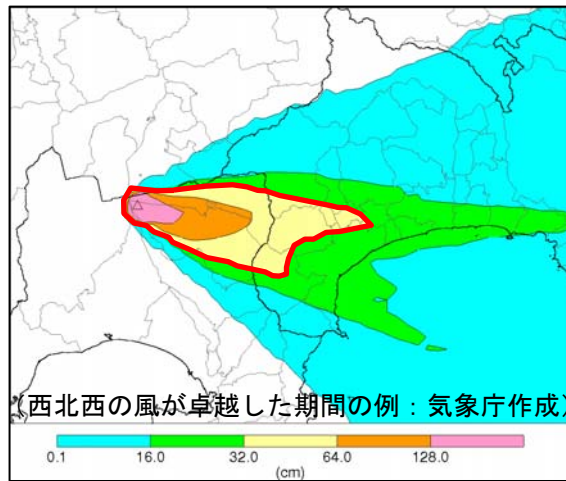


図2 降灰避難対象エリア（降灰30cm以上が想定される地域）

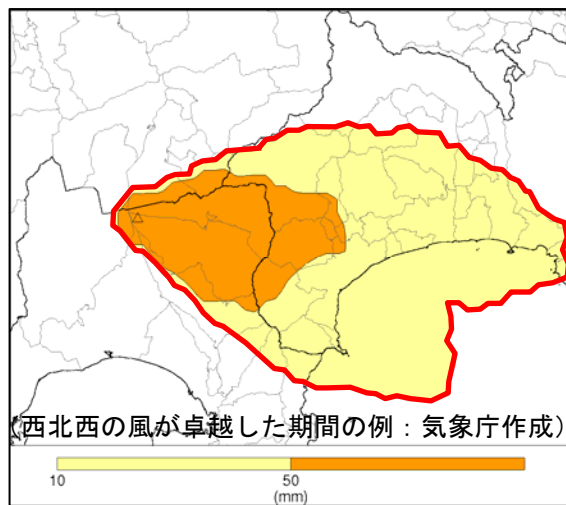


図3 小さな噴石影響想定範囲（1 cm以上の小さな噴石の降下が想定される地域）

3 火山現象とその影響

(1) 溶岩流の流下

溶岩流の流下による避難対象エリアは以下のとおりとする。(図4)

ア 噴火発生前

火口位置が予想できないため、第1・2次避難対象エリアは全方位避難となる。

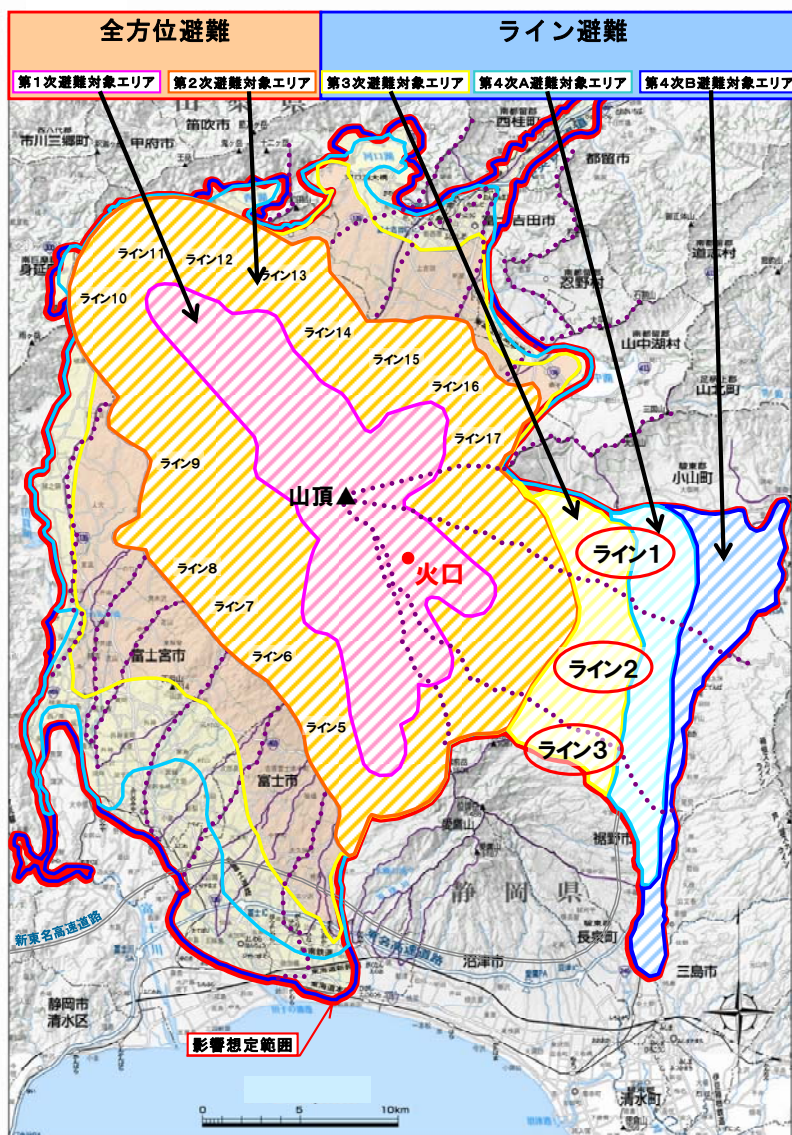
イ 噴火発生直後

富士山南東側で噴火が確認されたが、詳細な火口位置はすぐに判明しないため、第2次避難対象エリアより外側はライン1～3が避難対象となる。

ウ 噴火発生後

ライン2に火口が開き、溶岩流がライン2を流下するおそれがあることから、避難はライン2に限定する。ライン1と3は避難解除となる見込み。

時期	避難対象エリア	避難方法
噴火前	第1、2次	全方位避難
噴火開始直後	第3次	ライン避難 (ライン1～3)
噴火開始後	第3、4A、4B次	ライン避難 (ライン2) ※ライン1と3は避難解除



(2) 火山灰の堆積

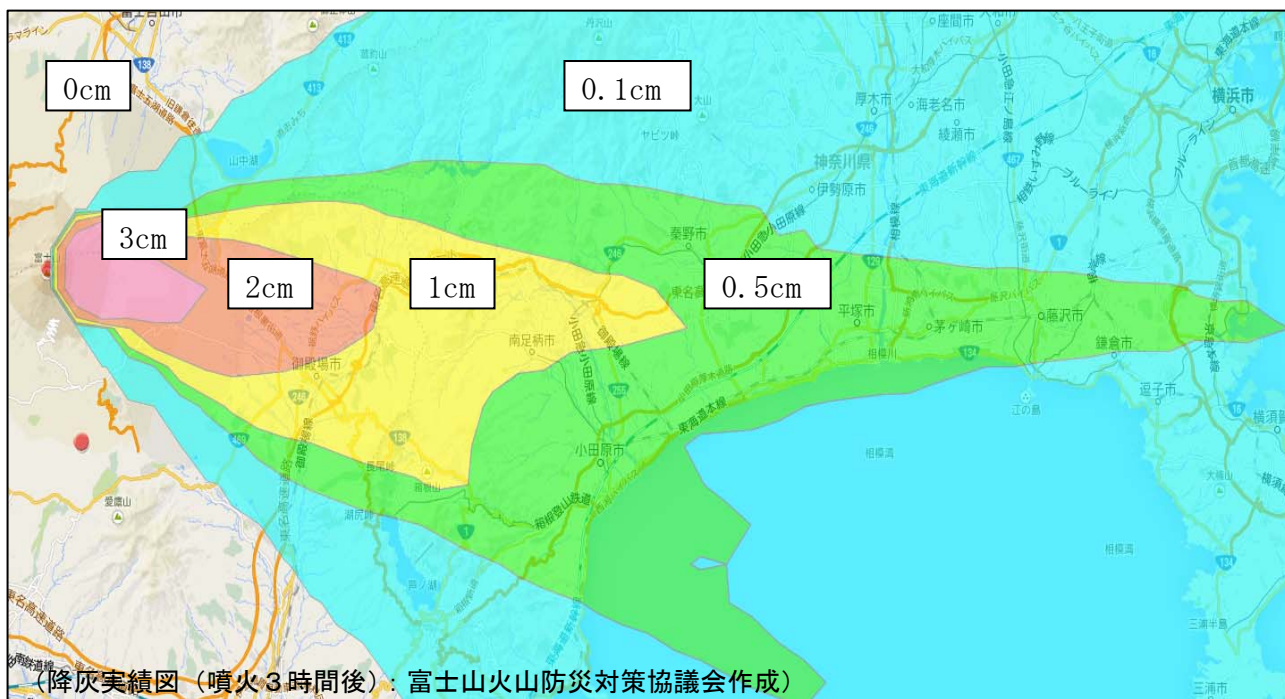
ア 噴火開始直後

大量の火山灰噴出により噴煙が高度2万mに達し、この状態が継続した場合、山梨県山中湖村、静岡県御殿場市、裾野市、小山町、神奈川県小田原市、南足柄市、秦野市、箱根町、山北町、大井町、中井町では、30cm以上の降灰が堆積する。

イ 噴火開始後

噴火後約30分経過した段階から火山灰の噴出は小康状態に向かう。

3時間後の降灰堆積深はおおむね以下のとおり。



(3) 避難対象エリアと避難対象人口

ア 段階別避難対象者数（単独ライン避難）

（万人）

ライン名	広域避難 （市町村 外避難） 対象者数	全方位避難		ライン避難		
		レベル4	レベル5	噴火開始後（溶岩流の流下範囲拡大）		
		第1次 避難対象エリア	第2次 避難対象エリア	第3次 避難対象エリア	第4次A 避難対象エリア	第4次B 避難対象エリア
ライン1	5.6	0	0	0.4	2.3	2.9
ライン2	5.7	0	0	0.6	2.5	2.6
ライン3	5.4	<0.1	0.1	0.3	1.6	3.5

イ 段階別避難対象者数（3ライン避難）

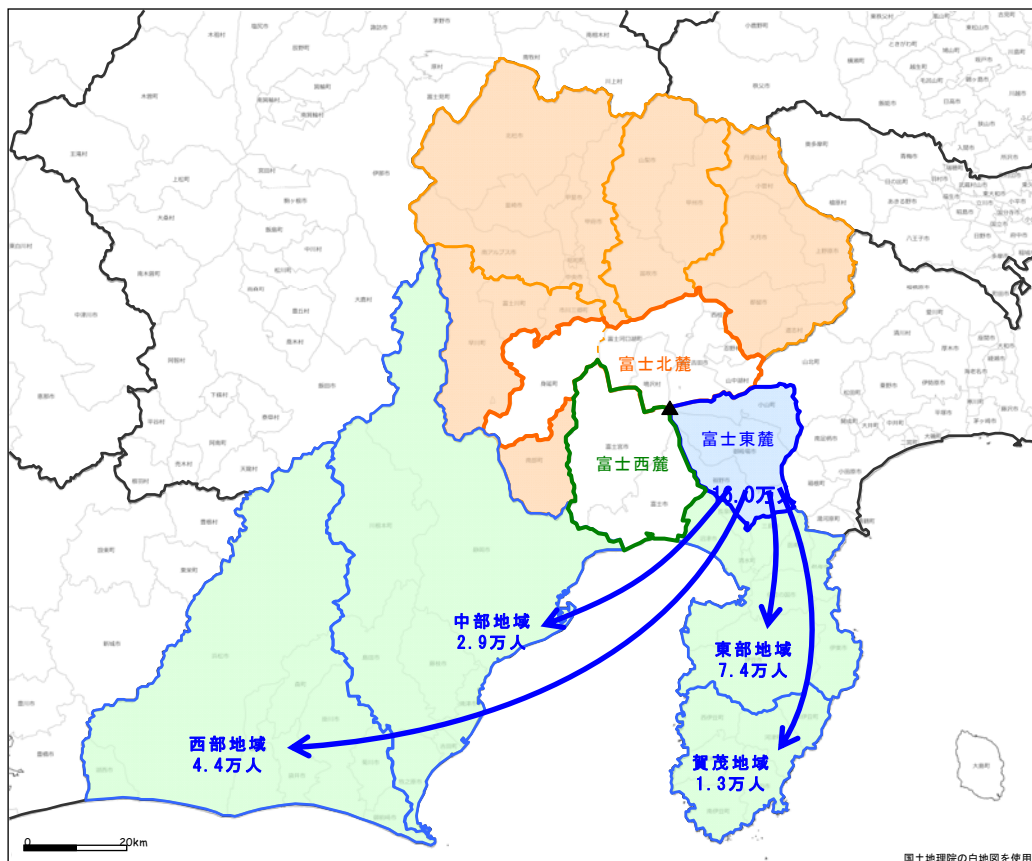
（万人）

ライン名	広域避難 （市町村 外避難） 対象者数	全方位避難		ライン避難		
		レベル4	レベル5	噴火開始後（溶岩流の流下範囲拡大）		
		第1次 避難対象エリア	第2次 避難対象エリア	第3次 避難対象エリア	第4次A 避難対象エリア	第4次B 避難対象エリア
ライン1・2・3	16.0	<0.1	0.1	1.3	5.7	8.9

ウ 広域避難先（3ライン避難）

（万人）

区分		静岡県				
		賀茂地域 （6市町）	東部地域 （9市町）	中部地域 （7市町）	西部地域 （8市町）	合計 （30市町）
受入れ可能人数		1.4	13.1	8.3	12.7	35.6
広域避難 対象者数	ライン1・2・3	1.3	7.4	2.9	4.4	16.0



資料：富士山火山広域避難計画から抜粋

4 噴火想定シナリオ

本訓練は、噴火想定シナリオに基づき実施する。

想定日時		火山現象等	気象庁発表
噴火 1～ 2ヶ月前	8月～9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 火山性地震が一時的に多発 地下深いところの膨張を示す地殻変動を観測 	噴火予報 (噴火警戒レベル1) 随時「火山の状況に関する解説情報」
10日前	10/09 12:00	<ul style="list-style-type: none"> 火山性地震が増加 低周波地震、火山性微動が継続的に発生 わずかな地殻変動が観測される 	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3) 「火山活動解説資料」
3日前	10/16 10:00	<ul style="list-style-type: none"> やや規模の大きい地震が増加 傾斜計で膨張を示す地殻変動を観測 	噴火警報 (特別警報) (噴火警戒レベル4) 「火山活動解説資料」
噴火当日 3時間前	10/19 08:00	<ul style="list-style-type: none"> 有感を含む顕著な群発地震が発生 地殻変動が加速 08:30に富士山直下でM6.0の地震が発生。御殿場市で震度5強 	噴火警報 (特別警報) (噴火警戒レベル5) 「火山活動解説資料」
噴火発生	11:00	<ul style="list-style-type: none"> 富士山南東側山腹で(標高2000m付近)で噴火発生 大きな噴石、小さな噴石、火山灰が噴出(※この時点では詳細不明) 	噴火に関する火山観測報
30分後	11:30	<ul style="list-style-type: none"> 有色噴煙が高度2万mに達する 	降灰予報
1時間後	12:00	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出を観測※ 溶岩流は御殿場市方面に流下 火山灰の噴出は小康状態となる※ 降灰観測(小山町、御殿場市、裾野市、神奈川県西部地域) 	噴火警戒レベル5切替 (警戒範囲変更。以降も溶岩流の流下に応じて随時切替える。)
2時間後	13:00	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出の継続 溶岩流が第2次エリアまで流下 降灰堆積深(御殿場市で1cm) 	
3時間後	14:00	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出の継続 溶岩流が第3次エリアまで流下 降灰堆積深(御殿場市で2cm) 	
24時間後	10/20 11:00	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出の継続 	
7日後	10/26	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出の継続 	
40日後	11/28	<ul style="list-style-type: none"> 溶岩流出の勢いが収まる 	
～2年後	2016.10月頃	<ul style="list-style-type: none"> 小規模な溶岩流出 活動収束 	

※今回の火山現象は訓練のために想定したもので、現実にこのような現象(噴火が1時間で小康状態となり溶岩流流出に移行)が起こる可能性はほとんどない。

5 被害状況

富士山噴火等に伴う主な被害状況は以下のとおり。(噴火開始後1時間時点)

(1) 建物被害

- ・噴火の3時間前に富士山直下で発生した地震(M6.0、御殿場市で震度5強)により崖崩れが発生し、御殿場市の民家1棟が土砂に埋没
- ・噴火に伴う空振により被害が多数発生(建物のガラスが割れる被害)

(2) 人的被害

- ・死者1名(80歳女性、心臓発作)
- ・重軽傷者数十名(御殿場市、裾野市、すべて地震による被害)
- ・行方不明者3名(御殿場市で民家1棟が土砂埋没により生き埋め)
- ・軽傷者多数(すべて地震による被害)

(3) 道路の状況

- ・東名、新東名高速道路は大井松田IC－富士IC(新富士IC)が通行止め
- ・一般道路は通行可能であるが、小山町、御殿場市、裾野市では避難車両による激しい渋滞が発生している
- ・第1次、第2次避難対象エリア内の道路は通行規制中
- ・道路への降灰により、スリップ事故が多発

(4) 鉄道の状況

- ・JR在来線(東海道本線、御殿場線の一部区間)
被害はないが、M6.0の地震直後から運転見合わせ
- ・JR新幹線(静岡－小田原区間)
被害はないが、M6.0の地震直後から運転見合わせ
- ・私鉄各社 岳南鉄道、富士急行はM6.0の地震直後から運転見合わせ
その他は通常どおり運行

(5) 路線バスの状況

- ・富士急シティバス 運行見合わせ
- ・その他のバス会社 通常どおり運行

(6) 旅客船の状況

- ・各社 通常どおり運行

(7) 浜岡原子力発電所の状況

- ・運転停止中の3・4・5号機への火山灰の影響はない

(8) ライフラインの状況

- ・電気(東京電力) 電力供給されているが、降灰の状況により供給停止予定
- ・電気(中部電力) 電力供給されているが、降灰の状況により供給停止予定
- ・都市ガス 噴火の影響はない
- ・上水道 噴火の影響はないが、大量降灰により取水施設が停止する可能性あり
- ・下水道 噴火の影響はないが、大量降灰により処理施設が停止する可能性あり
- ・固定電話 噴火直後からつながりにくい状況が続いている
- ・携帯電話 噴火直後からつながりにくい状況が続いている